

科目 コード	53160	授業 科目	生涯人間発達学 Life-span Development			担当 教員	○上田礼子（名誉教授）		
開講年次	博士前期課程 1年次前期		単位数	2単位	科目 分類	選択科目	授業 形態	講義	
選択必修	選択		時間数	30時間					
授業概要	<p>生命の誕生から死亡まで人間の生涯を発達の観点からとらえる種々の理論を学習し、理論構築の背景となった実証的研究と保健看護への応用を学習する。人生の各期における健康上のリスク児・者の問題を発達の観点から理解し、問題解決を保健看護の立場から支援に役立てる最近の理論、方法・技法を学習する。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各々のライフステージの人を対象に高度なケアを計画、実行、評価するために発達理論を応用する。 2. 発達の視点から複雑な健康問題を評価し、対応する。 3. 人間の成長・発達上の問題を歴史的、社会・文化的、生態学的に分析し、総合的に理解する。 4. 先進国、開発途上国と比較して日本における人間発達の特徴の理解を深める。 								
回数	授業内容及び計画							担当者名	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	<p>総論 生涯人間発達概念、年齢と時代、人生各期の区分 発達理論 各理論の保健看護への応用 生涯発達の研究方法（1） 生涯発達の研究技法（2） 各論 出生前発達とケア 乳児・幼児前期の発達と支援 幼児後期の発達と支援（1） 幼児後期の発達と支援（2） 乳幼児期の発達評価と支援 学童期の発達と支援 青年期の発達と支援 成人期の発達（成熟）と支援 老年期の発達（成熟）と支援 総括</p>							上田	
テキスト	上田礼子 「生涯人間発達学」 改訂第2版増補版第3刷 三輪書店 2013								
参考書	<p>上田礼子編著 「子どもの発達と支援」 中外医学社 2001 上田礼子著 「上田式発達簡易検査」 医歯薬出版 2011 新井清三郎, 上田礼子 リハビリテーション医学全書2, 「人間発達」, 第1版第23刷, 331-333, 医歯薬出版 1996 上田礼子著, 「子ども虐待予防の新たなストラテジー」 医学書院, 2009 Alison Clark-Stewart, Lifelong Human Development, Wiley, N.Y. 1988, その他</p>								
成績評価の方法	評価は授業参加時の態度、試験、レポートなどを総合して判断する。								
備考	学習方法：教科書および関連する参考書、文献の活用、発達簡易検査の活用、子どもの養育環境評価資料、ビデオの使用、Fieldでの観察・面接による学習								

科目コード	53170	授業科目	生体機能とリスク Functions of the Human Body and Risk			担当 教員	○佐伯宣久	
開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	選 択 科 目		授業 形態	講 義
選択必修	選 択	時間数	30時間					
授業概要	人体の正常な構造および機能との関連性についての知識を与える。これらを基礎とし病気の発生機序を理解させると同時に、基礎的な検査、診断および治療（薬理作用など）を教授する。							
到達目標	1. 各器官系の構造・機能を理解し、疾患の発生メカニズムを理解する基礎とする。 2. 診断に必要な検査及び治療法について、解剖生理学的観点から理解する。							
回 数	授 業 内 容 及 び 計 画							担当者名
全15回	各器官系の構造と機能について解説する。また、症例を提示し、その中で示された症状や行われた検査及び治療法について、その生理学的基礎を考察し、討論を行う。							佐 伯
第1回	細胞と遺伝							
第2回	骨格系							
第3回	筋系							
第4回	呼吸器系							
第5回	循環器系							
第6回	泌尿器系							
第7回	消化器系 (1)							
第8回	(2)							
第9回	内分泌系							
第10回	神経系 (1)							
第11回	(2)							
第12回	血液系							
第13回	体液調節							
第14回	感覚器系							
第15回	免疫系							
テキスト	関連する文献などを適宜配付する。							
参考文献	各授業で必要に応じて参考文献を紹介する。							
成績評価の方法	授業への参加状況とレポートで評価する。							
備 考	各講義の前準備として事前に設定する課題について調べ、授業に参加していただきたい。							

科目コード	53110	授業科目	疫学と保健統計 I Epidemiology and Health Statistics I		担当 教員	○新城 正紀	
開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	選択科目	授業 形態	講義
選択必修	選 択	時間数	30時間				
授業概要	<p>ある特定の集団（地域、職域、学校などを含む）における健康に関連した状態や事象の分布（記述疫学による）と決定要因（分析疫学による）及び健康管理への疫学および統計学の活用について学習し、グローバル化時代に対応した疾病のリスクマネジメントを、疫学的方法論からアプローチし、解決方法を探索する。</p> <p>看護分野の研究における疫学および統計について理解を深め、その手法について説明できること、及び実践のための疫学研究を理解し、実行できるよう学習する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学術論文に用いられる疫学および統計手法を理解、説明、活用できる。 2. 自らの研究（特別研究 I、課題研究）において疫学および統計手法を活用できる。 						
回数	授 業 内 容 及 び 計 画					担当者名	
第 1 回	疫学と統計学の看護学への応用					新城 正紀	
第 2 回	統計的検定、推定						
第 3 回	医療従事者のための統計手法（理論）						
第 4 回	医療従事者のための統計手法（応用）						
第 5 回	SPSS によるアンケートの調査・集計・解析						
第 6 回	応用統計 I：回帰分析						
第 7 回	応用統計 II：ANOVA						
第 8 回	保健看護への疫学の導入						
第 9 回	患者・対照研究						
第 10 回	コホート研究						
第 11 回	環境と疫学						
第 12 回	感染症の疫学						
第 13 回	がんの疫学						
第 14 回	社会疫学						
第 15 回	討議およびレポート課題						
テキスト	講義資料を配布する。						
参考文献	随時紹介する。						
成績評価の方法	レポート課題と参加状況により評価する。						
備 考							

科目 コード	53130	授業 科目	ヘルスプロモーション・健康教育 I Health Promotion and Health Education I		担当 教員	○川崎道子 守山正樹 (非常勤)			
開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目 分類	選 択 科 目	授 業 形 態	講義		
選択必修	選 択	時間数	30時間						
授業概要	<p>疾病の早期発見／治療からリスク軽減など従来の予防医学的な展開から、積極的に個人や集団の健康を求める方向に向かう中で、健康教育の考え方が生まれた。さらに周囲の人々や社会を健康的な方向に動かし、導く考え方としてヘルスプロモーションが生まれた。本授業では、これらの考え方の理論的発展過程を学び、日々の生活や研究での応用力を磨く。</p> <p>ヘルスプロモーションの理論の中心は、主に欧米で形成されたが、南米生まれのエンパワメントの考え方は、ヘルスプロモーションの核になりつつある。また日本も含め、アジア諸国でヘルスプロモーションの展開においては、沖縄も含め、アジアの人々の思考過程や感性も考慮する必要がある。本授業では、受講者相互の対話や、感覚体験の演習から、エンパワメントの意味を実践的に理解し、学校保健も含めて医療と教育、福祉の分野における連携とそれぞれの役割について学際的、国際的視野から学習する。</p> <p>慢性疾患をもって地域で生活する人のセルフコントロールとそれに関連する要因、患者教育などポジティブヘルスからアプローチを学習する。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康教育とヘルスプロモーションの歴史的・理論的背景を理解できる。 2. 健康教育・ヘルスプロモーション研究を適切に位置づけられる。 3. 保健看護に健康教育・ヘルスプロモーションを位置づけられる。 4. 保健看護に応用できる健康教育・ヘルスプロモーションの方法と技法を説明できる。 								
回 数	授 業 内 容 及 び 計 画					担 当 者 名			
第1回	20世紀以前の健康教育					川崎道子 守山正樹			
第2回	健康教育の母体となった実験心理学の視点								
第3回	行動科学の発達が健康教育に及ぼした影響								
第4回	社会心理学的なモデルと健康教育の社会化								
第5回	公衆衛生革命とヘルスプロモーションの誕生								
第6回	オタワ憲章からヘルスプロモーションを読み解く								
第7回	エンパワメントとヘルスプロモーション								
第8回	構成主義的な学習理論とヘルスプロモーション・健康教育								
第9回	人々と世界の再構築を続けるヘルスプロモーション・健康教育								
第10,11回	既習の理論等を活用し、ヘルスプロモーションに関する困難事例とその対応についての演習(小児・母性編)								
第12,13回	既習の理論等を活用し、ヘルスプロモーションに関する困難事例とその対応についての演習(成人・老年編)								
第14回	既習の理論等を活用し、ヘルスプロモーションに関する困難事例とその対応についての演習(精神編)								
第15回	保健看護におけるヘルスプロモーション・健康教育の実践的な展開方略に関する発表とまとめ								
テキスト	日本健康教育学会編、「健康教育__ヘルスプロモーションの展開」、保健同人社								
参考文献	http://www.wifywimy.com/								
成績評価の方法	評価は、課題レポート、討議への参加度・理解度によって総合的に判定する。								
備 考	集中講義方式で行う。講義では積極的な質疑、討論を期待する。								

科目コード	53140	授業科目	保健看護情報 Nursing and Health Informatics		担当教員	○金城 芳秀		
開講年次	博士前期課程 1年次後期		単位数	2単位	科目分類	選択科目	授業形態	講義
選択必修	選 択		時間数	30時間				
授業概要	<p>離島・へき地を抱える沖縄県では、ICT を応用したテレヘルス、テレナーシングによる保健医療システムの質改善が期待されている。その際、保健看護の専門職者にはどのような看護能力（知識・技術・態度）が求められているのだろうか。さらに看護能力の向上では、eラーニングや継続教育がどのような役割を果たすことができるのであろうか。ここでは、対面授業でのディスカッションを中心に、eラーニングシステムを活用しながら、学習者の知識と技術の向上を目指す。</p>							
到達目標	<p>1. 病院・施設、家庭、地域それぞれの場面において有用な保健看護情報について述べる。 2. 遠隔地における保健看護上のニーズおよびコミュニケーションについて説明する。 3. 患者情報の守秘、法的倫理性、保護など、専門領域における情報の活用方法を述べる。</p>							
回数	教育内容及び計画						担当者名	
第1回	看護情報学 ー看護情報学に必要な能力						金城 芳秀	
第2回	Telenursing							
第3回	e-learning と看護継続教育							
第4回	情報の伝達とコミュニケーション							
第5回	ポピュレーションの健康							
第6回	健康の決定要因							
第7回	健康格差							
第8回	健康政策							
第9回	健康情報へのアクセス（情報リテラシー）							
第10回	プレゼンテーション							
第11回	患者の権利とインフォームド・コンセント							
第12回	ICT とプライバシー、守秘、情報保護							
第13回	看護における継続教育							
第14回	データ、情報および知識の統合にむけて（ディスカッション）							
第15回	島嶼県沖縄のニーズと ICT							
テキスト	関連資料、文献等を適宜配布する							
参考文献	<p>Hunter MK: International professional standards for telenursing programmes standards and competencies International Council of Nurses 2001 American Nursing Association: Nursing Informatics -Scope and standards of practice- 2nd Edition 2015</p>							
成績評価の方法	評価は討議への参画、プレゼンテーション、レポートによって総合的に行う							
備考								

科目 コード	53220	授業 科目	地域文化看護論 Community Culture and Nursing Theory			担当 教員	○大湾明美 他 津波高志・岩崎弥生 (非常勤講師)	
開講年次	博士前期課程 1年次・前期	単位数	2単位	科目 分類	選択科目	授業 形態	講義	
選択必修	選 択	時間数	30時間					
授業概要	看護における地域文化の影響、地域文化に根ざした看護について検討する。							
到達目標	1.文化の概念と琉球弧の文化を学ぶ。 2.健康と文化の関係を学び、異文化看護、地域文化看護について説明できる。 3.看護における地域文化の影響について説明できる。 4.地域文化に根ざした看護の必要性について具体的に説明できる。 5.国内外の地域文化と看護に関する課題を学び看護実践に生かすことができる。							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画						担当者名	
第1回	オリエンテーション						大湾明美	
第2回	文化の定義：						津波高志	
第3回	琉球弧の文化概観：						津波高志	
第4回	異文化看護とは 地域文化看護とは：						岩崎弥生	
第5・6回	看護における地域文化の影響：						岩崎弥生	
第7・8回	海外にみる異文化と看護実践：						地域保健(講師)	
第9・10回	海外事例研究と実践事例から							
第11・12回	沖縄に見る地域文化と看護：						大湾明美	
第13・14回	沖縄の事例研究と実践例から							
第15回	看護実践における地域文化の影響事例について学生の報告：						大湾明美	
	国内外の地域文化と看護に関する課題(海外)						地域保健(講師)	
	国内外の地域文化と看護に関する課題(国内)						岩崎弥生	
	まとめ：						大湾明美	
テキスト	必要に応じて資料を配付する。							
参考文献	講義のテーマに沿って、その都度紹介する。 高橋孝代(2006)、境界線の人類学、重曹する沖永良部島民のアイデンティティ、弘文堂 レイニンガー(1992/1995)、稲岡文昭監訳、レーニンガー看護論、文化ケアの多様性と普 遍性、医学書院 Kiefer, CW(2006/2010)、木下康仁訳、文化と看護のアクションリサーチ、保健医療への 人類学的アプローチ、医学書院 Roper, JM(2000/2003)、麻原きよみ・グレッグ美鈴訳、エスノグラフィ、日本看護協会出 版会							
成績評価 の方法	講義への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。							
備 考								

科目 コード	53180	授業 科目	看護倫理 Nursing Ethics			担当 教員	○未定 手島恵(非常勤)	
開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	選 択 科 目	授 業 形 態	講 義	
選択必修	選択	時間数	30時間					
授業概要	看護倫理の基本的原則を理解し、倫理的課題を検討し、実践現場で活用できる倫理的判断能力と問題解決技法を学ぶ。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理の原則・規範について説明できる。 2. 看護倫理の主要な概念について述べるができる。 3. 倫理課題とその解決技法について述べるができる。 4. 倫理的問題について多様な価値観に耳を傾けると共に自分の意見を述べるができる。 5. 倫理的感性を高める必要性について理解する。 							
回 数	授 業 内 容 及 び 計 画						担 当 者 名	
第1・2回	看護倫理の概念と倫理原則、倫理規範						未定	
第3・4回	インフォームド・コンセント、アドボカシーの概念						未定	
第5～9回	看護職の臨床現場における倫理的ジレンマと課題解決						手島	
	倫理的ジレンマにおける意思決定や解決モデル						手島	
	看護をめぐる法的問題と倫理						手島	
	看護管理における倫理						手島	
第10・11回	解決モデルを活用した看護倫理上の事例検討①						未定	
第12・13回	解決モデルを活用した看護倫理上の事例検討②						未定	
第14・15回	専門看護師の倫理調整の役割						非常勤講師	
テキスト	・Davis A. j., Tschudin V. Raeve L. (編) (2006/2009), 小西恵美子 (監訳)、看護倫理を学ぶ・教える 倫理教育の視点と方法. 日本看護協会出版会							
参考文献	・適時、提示する。							
成績評価の方法	授業への参加姿勢(20%)、プレゼンテーション (20%)、レポートの内容(60%)							
備 考	<p>事例検討について プレゼンテーションと討議を行なう。 事例検討は受講生が体験した事例を取り上げる。発表者は授業の前日までに発表資料を参加者に配布する。</p>							

科目コード	53190	授業科目	看護コンサルテーション (Nursing Consultation)		担当教員	○藤野裕子、村上満子 吉澤龍太(非常勤) 上原勝子(非常勤)	
開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目分類	選択科目	授業形態	講義
選択必修	選択	時間数	30時間				
授業概要	<p>援助関係の基本となる問題解決過程とコンサルテーション過程についての理解を深め、看護組織におけるコンサルテーション機能の重要性について学習する。また、事例検討を通して専門看護師に必要な看護コンサルテーションの基本的技法を学ぶ。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践に必要なコンサルテーションの意義を説明できる。 2. 看護組織におけるコンサルテーション機能の必要性を説明できる。 3. 看護実践の問題解決法としてコンサルテーション過程の適用を説明できる。 						
回数	授業内容及び計画					担当者名	
第1・2回	コンサルテーションの概念 コンサルタント及びコンテルティの役割					藤野裕子	
第3・4回	専門看護師の役割・機能とコンサルテーション 援助関係としてのコンサルテーション						
第5・6回	プロセス・コンサルテーション 問題解決過程とコンサルテーション過程					村上満子	
第7・8回	コンサルテーションのタイプ クライアント中心のケースコンサルテーション コンサルティ中心のケースコンサルテーション プログラム中心の管理に関するコンサルテーション コンサルティ中心の管理に関するコンサルテーション					藤野裕子	
第9・10回	臨床現場におけるコンサルテーションと CNS の役割					吉澤・上原 (非常勤)	
第11・12回 第13・14回 第15回	コンサルテーションが必要な事例・場面の設定と組み立ての演習 コンサルテーションに関する文献学習により、コンサルテーションの技法や評価について学ぶ コンサルテーション活動の実践と評価 (まとめ)					藤野・村上	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。						
参考文献	<p>・シャイン,E.H.(著)(1996/2004). 稲葉元吉, 尾川丈一.(訳).プロセス・コンサルテーション～援助関係を築くこと～. 白桃書房. 随時、資料を配付する。</p>						
成績評価の方法	評価は授業への参加度、プレゼンテーション、レポート等を総合して行う。						
備考	授業の前半は集中講義、後半はグループ学習形式で行う。						

ち科目 コード	53201	授業 科目	看護管理・政策 Nursing Administration & Health Policy			担当 教員	○宮里 智子 田村やよひ（非常勤）	
開講年次	博士前期課程 1年次前期		単位数	2単位	科目 分類	選択科目	授業 形態	講義
選択必修	選択		時間数	30時間				
授業概要	<p>保健看護サービスシステムについての理解を深め、看護職が直面している課題を把握し、現場の変革を推進するために必要な体系的知識・技術を有効に活用できる能力を養う。</p> <p>わが国の保健看護政策の決定過程を学び、看護界の直面している問題および改善するための道筋を明らかにする。</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現状を変革するための戦略・戦術、変革のプロセスを理解し、患者ケア提供システムの改善策などについて検討できる。 2. 保健医療の質保証に関するシステムおよびリスクマネジメントの実際を知る。 3. 看護政策の人材育成・キャリア開発への効果的なサポートシステムを提言できる。 							
回数	授業内容及び計画						担当 者名	授業 方法
第1回	《看護管理》 保健医療福祉制度改革の現状と看護職の直面する課題の明確化						未定	講義
第2回	保健医療提供組織の特徴：法的根拠、看護組織のしくみ、専門職の連携						未定	講義
第3回	組織行動の考え方：組織の中の個人、モチベーション、コミットメント						未定	講義
第4回	変革の時代における看護専門職のリーダーシップ						未定	講義
第5回	看護専門職の役割拡大と責務の範囲						未定	講義
第6回	医療における質保証						未定	講義
第7回	病院における医療安全管理の実際：リスクマネージャーの役割						未定	講義
第8回	直面している看護管理上の課題と改善策（報告：一人あたり10分）						宮里	講義
第9回	《看護政策》 看護政策と政策決定過程						田村	講義
第10回	医療提供体制の改革と課題						田村	講義
第11回	保健師助産師看護師法と看護職者の責務、課題						田村	講義
第12回	看護職員の需給と確保						田村	講義
第13回	看護職者の資質向上に向けた政策の変遷と課題						田村	講義
第14回	看護の国際化とわが国の課題						田村	講義
第15回	政策課題（報告：一人あたり15分）						田村	講義
第16回	看護専門職に必要な政策力（まとめ）						田村	講義
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「看護管理学習テキスト」①②③別巻 日本看護協会出版会 ・田村やよひ. (2015). 私たちの拠りどころ 保健師助産師看護師法 第2版. 日本看護協会出版会. その他、事前に必読文献を提示する。 							
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護協会. (2007). 看護業務基準2007改訂版. 日本看護協会出版会 ・中西睦子 (編) (2013). 看護サービス管理 第4版. 医学書院. ・見藤隆子他. (2007). 看護職のための政策過程入門. 日本看護協会出版会 ・日本看護協会編. (2010). 日本看護協会の政策提言活動. 日本看護協会出版会. 							
成績評価 の方法	評価は講義への出席状況と参加姿勢およびレポート等を総合して行う。							

科目 コード	53230	授業 科目	実践臨床薬理学 Practical Clinical Pharmacology			担当 教員	○植田真一郎（非常勤） 糸嶺達（非常勤） 赤嶺伊都子	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目 分類	選択科目	授業 形態	講義	
選択必修	選択	時間数	30時間					
授業概要	薬剤と生体との相互作用および、薬剤の基本的な作用機序を理解し、急性期や慢性疾患の患者、妊婦・授乳中の女性、小児から高齢者まで、各対象別に処方されている薬剤についての症状緩和や薬物の使用・中止の判断と、服薬管理能力を高めるための指導に必要な基礎知識を学ぶ。さらに、薬物治療を受けながら療養している患者の症状緩和、モニタリングおよび疾病の回復への支援について学習する							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤と生体との相互作用が説明できる。 2. 薬剤の体内での吸収、分布、代謝、排泄の機序が説明できる。 3. 薬剤の基本的な使用方法について、病態時の特徴を含め説明できる。 4. 在宅療養者に投与されることの多い薬剤について、作用機序、副反応、投与方法が説明できる。 5. 医療資源の乏しい地域の住民が、在宅で服用している薬剤の服用方法や管理等について、当該住民が理解し、実践できるよう指導ができる。 6. 妊婦・授乳中の女性、小児、高齢者、腎機能障害を有する人の服薬についてモニタリングし、危険の可能性が判断でき、必要時服薬中止し主治医に連絡するよう助言することができる。 7. 薬剤の主な副反応についてアセスメントし対処法を説明できる。 8. 薬剤の多剤服用および食品等との併用時の禁忌について説明できる。 							
回数	授業内容及び計画					担当者名	授業 方法	
第1・2回	薬理学の基礎(薬物動態学、薬物代謝)					植田 (医師)	講義	
第3・4回	薬剤の処方・変更における医師の判断過程 薬剤の基本的な使用方法および病態時の特徴							
第5・6回	慢性疾患・在宅療養者に投与されることの多い薬剤							
第7・8回	主な薬剤、作用機序、副反応、投与方法等、薬剤効果（臓器別、効能別等） 特殊な条件にある人の薬剤使用の特徴							
第9・10回	妊婦・授乳中の女性、小児、高齢者、腎機能・肝機能障害を有する人等 薬剤の多剤服用および食品等との併用禁忌 副反応のアセスメントと対処法					糸嶺達 (薬剤師) 赤嶺	講義 講義 討議	
第11・12回	多剤服用の事例、特殊な条件下にある事例の服薬使用の特徴 ・事例検討を通して服薬使用の特徴、留意点を理解する。 妊婦・授乳中の女性、小児、高齢者、腎機能障害・肝機能障害をもつ患者 など							
第13・14回	服薬の製剤・調剤・保管、変質の管理について							
15回	服薬指導が必要な事例（薬剤の必要性、服用上の留意点、指導） ・事例検討を通して服薬指導のアセスメントと指導の実際を体験する。 服薬が遵守できない事例、服薬確認が困難な事例、薬剤の自己管理がで きない事例など							
テキスト	デービット・E．ゴーラン他、日本語版監修、清野裕（2005/2006）、ハーバード大学テキスト、病態生理に基づく臨床薬理学、メディカル・サイエンス・インターナショナル その他：随時資料を配付する。							
参考文献	随時参考文献などを紹介する。							
成績評価 の方法	授業参加態度（ディスカッション等の参加状況）、事例検討レポートを総合して評価する。							
備考	事前学習としてハーバード大学のテキストの各単元を熟読して授業に参加する。							

科目 コード	53240	授業 科目	実践ヘルスアセスメント Practical Health Assessment			担当 教員	○上原和代、 謝花小百合、佐伯宣久 非常勤講師:伊藤智美、 城間欣子、砂川長彦 林成峰、外間実裕 山内豊明、徳田安春	
開講年次	博士前期課程 1~2年次	単位数	2単位	科目 分類	選択科目	授業 形態	講義 演習	
選択必修	選択	時間数	45時間					
授業概要	小児から高齢者までの各ライフサイクルに特有なアセスメントの特徴を理解し、クリティカルシンキングをベースにした包括的なアセスメント能力を養うためのヘルスアセスメントの知識・技術・技能を学び、実践で活用できるようにする。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象理解に基づく適切なヘルスアセスメントを実施できる。 2. ライフサイクル各期に特有のアセスメントの特徴を述べることができる。 3. アセスメント技術を通して、正常・異常を包括的に判断し説明できる。 4. 実践で活用できるフィジカルアセスメントが実施できる。 							
回数	授業内容及び計画					担当者	授業 方法	
第1回	イントロダクション：ヘルスアセスメント技術の確認 シミュレーター活用したヘルスアセスメントのベースラインテスト					上原・謝花	講義 ・ 演習	
第2・3回	面接と健康歴聴取の技法と臨床推論 頭頸部のヘルスアセスメント					城間 (看護師)		
第4・5回	専門看護師に必要なヘルスアセスメントの技法					伊藤 (専門看護師)		
第6・7回	呼吸器系のヘルスアセスメント					徳田(医師)		
第8・9回	循環器系のヘルスアセスメント					砂川(医師)		
第10・11回	消化器系のヘルスアセスメント					林(医師)		
第12回	腎・泌尿器系のヘルスアセスメント					外間(医師)		
第13・14回	感覚・神経のヘルスアセスメント					山内(医師)		
第15・16回	筋・骨格器系のアセスメント					山内(医師)		
第17回	乳幼児へのヘルスアセスメント					佐伯(医師)		
第18・19回	急変時のヘルスアセスメント					徳田(医師)		
第20-22回	臨床事例を用いたヘルスアセスメントの実際 ・ロールプレイを活用したケース別ヘルスアセスメントの実際と デブリーフィング					伊藤 (専門看護師)		
第23回	シミュレーター活用したヘルスアセスメントの到達度テスト					上原・謝花		

テキスト	Lynn S.Bickly(2013), 福井次矢, 井部俊子(2015), ベイツ診療法 Bates' Guide to Physical Examination and History Taking 11th Edition, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京.
参考文献	<p>中木高夫 (翻訳)、山内豊明 (翻訳) (1998) : ヘルスフィジカルアセスメント (上巻)、日総研出版</p> <p>中木高夫 (翻訳)、山内豊明 (翻訳) (1998)、ヘルスフィジカルアセスメント (下巻)、日総研出版</p> <p>Wolters Kluwer(2011) 、 NURSING HEALTH ASSESSMENT, A Best Practice Approach,Lippincott Williams & Wilkins.</p> <p>山内豊明訳(2015)、ベイツ診療法ポケットガイド 第2版、メディカル・サイエンス・インターナショナル</p>
成績評価の方法	<p>①授業の初日と最終日：ヘルスアセスメントの技術について評価する。</p> <p>②各発達段階に応じたヘルスアセスメントを実施し、レポートを提出する。 発達段階の事例：乳幼児、成人期、老年期の各1名に対するヘルスアセスメント</p> <p>③講義・演習時の参加状況、態度、課題の提出状況（特に各事例に対するクリティカルシンキングを用いたディスカッション）</p> <p>※①～③を総合的に評価する。</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・病院で着用しているユニホーム、聴診器を持参する。 ・事前学習として、テキストの各単元を熟読し、病態生理を復習しておくこと。 ・非常勤講師の都合により日程変更が必要になる場合がある。その際には事前に連絡する。

科目コード	53250	授業科目	実践臨床病態生理学 Practical Clinical Pathophysiology			担当教員	○佐伯宣久、中村真理子、福島卓也 大湾一郎、砂川長彦、比嘉盛丈、 諸見里拓宏、豊川貴生、當間隆也、 林成峰、宮城哲哉、石垣昌伸、 宮里智子		
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目	選択科目	授業	講義		
選択必修	選択	時間数	30時間	分類		形態			
授業概要	病態の成因を細胞、組織、遺伝子レベルから学習し、さらに先天性異常・循環器疾患・炎症・腫瘍など領域別による疾患や障害の成因を理解し、診断や治療方針について学習する。学習した病態生理の知識を活用し、エビデンスに基づいた臨床判断能力を養うための技法を修得する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患の発生・進展・治癒のメカニズムを生理学的視点から理解できるようにする。 2. 各疾患の病態生理に基づき、検査・診断・治療方針などを理解できるようにする。 3. 医療現場において、常に疾患の病態生理を念頭におきながら臨床判断と看護展開を行うことができるよう、その方法論的基礎を修得する。 								
回数	授業内容及び計画					担当者名	授業方法		
授業番号	<p>1 病態生理学総論・血液凝固異常の病態生理学</p> <p>2 血液疾患の病態生理学</p> <p>3 運動器疾患の病態生理学</p> <p>4 循環器疾患の病態生理学</p> <p>5 内分泌・代謝疾患の病態生理学</p> <p>6 腎疾患の病態生理学</p> <p>7 HIV感染の病態生理学</p> <p>8 先天異常の病態生理学</p> <p>9 消化器疾患の病態生理学</p> <p>10 神経疾患の病態生理学</p> <p>11 呼吸器疾患の病態生理学</p> <p>12 病態生理学（その他1）</p> <p>13 病態生理学（その他2）</p> <p>14 病態生理と看護展開（1）</p> <p>15 病態生理と看護展開（2）</p> <p>・授業の日程については別途配布する。</p>					中村 福島 大湾 砂川 比嘉 諸見里 豊川 當間 林 宮城 石垣 佐伯 " 宮里 "	講義・ 討論		
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。								
参考文献	矢崎義雄 総編集：内科学 第10版，朝倉書店 2013 医療情報科学研究所 編集：病気がみえる Vol. 1-9，メディックメディア 御手洗玄洋 総監訳：ガイドン生理学 原著第11版，エルゼビアジャパン 2010								
成績評価の方法	授業参加状況、レポート、プレゼンテーションなどで評価する。								
備考	本科目では、講師による講義に加え、講師と受講生による討論を重視したいと考えている。授業の事前準備として各自以下のことを行い、活発な討論をお願いしたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・講義のテーマについて標準的な教科書などを読む。 ・講義のテーマに関する学術的な疑問や医療現場で生じた疑問を整理しておく。 								

科目コード	53260	授業科目	医療の質保証と安全管理 Guarentey for Quality of Medical Heath Care and Safty Management		担当 教員	○未定			
開講年次	博士前期課程1～2年次	単位数	2単位	科目 分類	専攻分野共通科目	授業 形態	講義		
選択必修	選択（領域必修）	時間数	30時間						
授業概要	質の高い医療、ケア提供のための医療倫理、医療安全の基本や体系的取り組み、リスクマネジメントの理論を学ぶ。また ケーススタディをとおしてプライマリ・ヘルス・ケアナースプラクティショナー(NP)として医療の質保証と評価、安全管理とリスクマネジメントに対応できる能力を養う。								
到達目標	1. 質の定義について説明できる。 2. 安全管理とリスクマネジメントの理論が説明できる。 3. 医療倫理を基盤とし、医療の質保証と医療安全（安全管理）の観点からプライマリ・ケア NP としての質の高い看護実践と評価、安全管理について思考し述べることができる。 4. 自己のリスクマネジメントについて思考し述べることができる。								
回数	授業内容及び計画					担当者名			
第1回	オリエンテーション 医療倫理 4原則					未定			
第2回	質の定義、概念的探究								
第3回	質の定義 実証調査研究								
第4回	評価のための基本的な方法								
第5回	医療の質と評価								
第6回	看護サービスの質と評価、 クリティカルパス（医療の標準化）								
第7回	第3者評価としての病院機能評価（日本）と J C I（Joint Commission International）枠組み、指標項目								
第8回	医療の質管理の手法：TQM								
第9回	安全管理とリスクマネジメント								
第10～14回	ケーススタディ 次のキーワードをポイントにする。 構造・過程・結果 技術要素、療養環境（診療環境）・安全管理 薬剤管理 チームケアと多職種連携 情報管理と個人情報保護 コミュニケーション 自己のリスクマネジメント（セルフマネジメント） （ケースは、授業で提示）								
第15回	プレゼンテーション ライマリ・ヘルス・ケア NP としての医療の質保証 プライマリ・ヘルス・ケアの「質保証のための行動」モデル								
テキスト	資料配布								
参考文献	医療倫理・医療の質の定義と評価方法 健康評価機構 井部俊子 中西睦子監修 看護管理学習テキスト「看護マネジメント論」日本看護協会出版会								
成績評価の方法	授業参加とレポートとプレゼンテーションにより評価する。								
備考	事前に必読文献を提示する。 授業は、講義とケーススタディ								

科目 コード	53270	授業 科目	保健看護と研究 I (量的研究) Health Nursing Research II (Quantitative Research)		担当 教員	○金城芳秀			
開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	2 単位	科目 分類	選択科目	授業 形態	講義		
選択必修	選 択	時間数	30 時間						
授業概要	エビデンスに基づいた看護実践 (evidence-based practice) においては、研究デザインと統計解析方法を理解し、質の高い研究成果を実践に活用することが求められている。ここでは、研究プロセスを理解し、研究力を高めるために、論文クリティーク (批判的評価) を通して、研究目的に対応した研究デザインならびに統計解析方法を選択できる能力を養う。								
到達目標	1. 研究目的に対応した研究デザインならびに統計解析方法を選択できる。 2. 関心領域の論文クリティーク (批判的評価) ができる。								
回 数	授 業 内 容 及 び 計 画					担 当 者 名			
第 1 回	研究デザイン (質的、量的、ミックス法)					金城芳秀			
第 2 回	研究デザインと効果の指標								
第 3 回	因果推論: バイアス、交絡、偶然								
第 4 回	システマティック・レビュー/メタ解析								
第 5・6 回	クリティークの実際 ①観察研究								
第 7・8 回	クリティークの実際 ②介入研究								
第 9・10 回	クリティークの実際 ③ランダム化比較試験								
第 11 回	データ収集のための調査技法								
第 12 回	サンプルサイズの決め方								
第 13 回	尺度構成法								
第 14 回	生存時間解析								
第 15 回	ミックス法 (Mixed Methods Approach)								
テキスト	高木廣文・林邦彦 エビデンスのための看護研究の読み方・進め方 中山出版 2006 年								
参考文献	山川みやえ・牧本清子 研究手法別のチェックシートで学ぶ よくわかる看護研究論文のクリティーク 日本看護協会出版会 2014 年								
成績評価の方法	評価は、討議への参画、プレゼンテーション、レポートによって総合的に行う								
備 考									

科目 コード	53280	授業 科目	保健看護と研究 I (質的研究) Health Nursing Research I (Qualitative Research)		担当 教員	○ 永島すえみ 長谷川美貴 (非常勤講師)		
開講年次	博士前期課程 1年次前後期	単位数	2単位	科目 分類	共通科目	授業 形態	講義	
選択必修	選択	時間数	30 時間					
授業概要	保健看護分野において質的研究を実施するための基礎知識・技法を学修する。そのため、先ず質的研究の一連のプロセスを学習し、次に幾つかの代表的な研究方法を詳しくみていく。さらに、インタビュー、(参与)観察といった基本の技法を演習形式で学ぶ。データ分析についても、実際に行われた研究プロジェクトのトランスクリプトを用い、コーディングやカテゴリー化の演習を実施する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 質的研究が量的研究とどのように異なるかを述べることができる。 2 研究の課題・問いに応じて適切な研究方法を選ぶことができる。 3 質的研究の信頼性・妥当性について述べるができる。 4 インタビューや観察といった基本的な技法を用いることができる。 5 コーディングやカテゴリー化を通して初歩的なデータ分析を行うことができる。 							
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画						担 当 者 名	
第1回	イントロダクション：質的研究とは一定義、特徴、研究法の種類ー						永島すえみ	
第2回	質的研究のプロセス①：問いの設定、文献収集・検討、研究のデザイン、協力者のサンプリング、フィールドへのアクセス						長谷川美貴	
第3回	質的研究のプロセス②：データの作成、インタビュー・観察・記録の種類、データの分析、論文の執筆						〃	
第4回	質的研究における信頼性・妥当性について						〃	
第5回	様々な研究方法①：「質的記述的研究」と「グラウンディド・セオリー」						〃	
第6回	様々な研究方法②：「エスノグラフィー」と「現象学」						〃	
第7回	様々な研究方法③：「事例研究」と「アクション・リサーチ」						〃	
第8回	インタビューと(参与)観察の仕方						〃	
第9回	インタビューの演習						〃	
第10回	(参与)観察の演習						〃	
第11回	インタビューと(参与)観察の演習へのフィードバック						〃	
第12回	実際のプロジェクトから学ぶ①：コーディングの仕方と演習						〃	
第13回	実際のプロジェクトから学ぶ②：演習の続き						〃	
第14回	実際のプロジェクトから学ぶ③：演習へのフィードバック						〃	
第15回	コーディングから論文へ 総括						長谷川・永島	
テキスト	グレッグ美鈴・他(編著)。(2016). よくわかる質的研究の進め方・まとめ方, 看護研究のエキスパートをめざして, 第2版, 医歯薬出版 *随所で補助教材を使用し、様々な研究方法の学習にあたってはサンプル論文を用いる。							
参考文献	必要に応じて随時紹介する。							
成績評価の方法	講義への参加状況、演習への取り組みなどを総合して評価する。							
備考								